大きくジャンプ

別々ではなかった神と仏

わたしの住んでいる地域のお寺には神社の鳥居が立っているところがあります。どうしてこのようなことになったのかと考え，この神と仏の信仰は，いつごろからどのように行われてきたのか，神と仏の歴史について調べてみました。

若狭神宮寺の本堂（福井県小浜市）

若狭神社の「お水送り」　水は，10日で届くといわれ，毎年「お水取り」の10日前の3月2日に行われます。

神宮寺という寺院

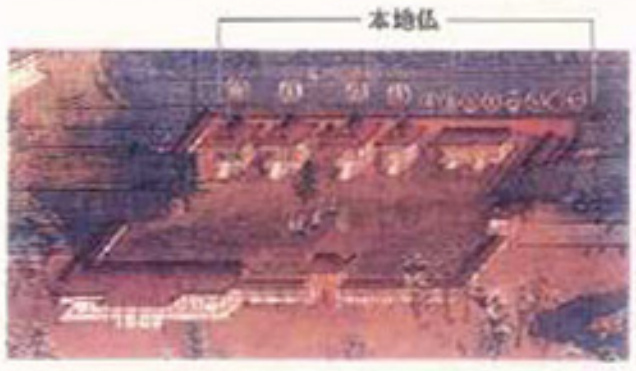
上の寺院の本堂の写真をよく見ると，どこか普通の寺院の本堂とはちがっているところがあります。普通は神社にしか見られない注連縄がかけられているのです。どうして，お寺に注連縄という組み合わせになっているのでしょうか。

この寺院は若狭神宮寺といい，712年，若狭彦と若狭姫の神をまつるために建てられたという記録が残っています。また，この神宮寺の本尊の神が神々の集まりに遅れたおわびとして，東大寺二月堂の十一面観音にお供えする水を若狭から送る約束をしたという言い伝えがあり，今も二月堂の「お水取り」に合わせて「お水送り」の行事を行っています。

この寺院のように，「神宮寺」という名をもつ寺院は全国各地に多く残されています。また，実際に建物はなくなっていて，地名として残っているところもあります。また，寺院のなかに鳥居が立っていたり，神社のなかにシャカの骨をまつった五重塔や三重塔が建てられているところもあります。

現代の神と仏

時代劇などを見ていると，「南無八幡」などという言葉が出てくることがあります。この「南無」というのは仏教の言葉で，「八幡」というのは神社関係の用語です。また，今でも「神仏を尊ぶ」とか，「神も仏もあるものか」などというように，ほとんど神と仏は全く一つのものだというようにも考えられています。いっぽう，お正月の初詣でや夏祭り，秋の祭礼などは，神社が中心になって営まれ，現世の幸せなどが祈念されています。そして，葬式や法事など，来世にかかわることがらは，主に寺院が担当するという分業に似た使い分けが，当然のことのように行われています。



神社の社殿にならんでえがかれた本地仏（熊野曼荼羅）　鎌倉時代の熊野地方（和歌山県）の神社をえがいたものです。

では，こうした信仰のしかたはいつごろからどのようにして始まったのでしょうか。

支え合う神と仏―神仏習合―

もともと古代の日本では，大きな岩（磐座）や深い森（神奈備）などといった区域が，神として信仰の対象になりました。そして，その区域が注連縄や榊などで示され，社が設けられるようになりました。やがて，その信仰は有力な氏族の出自や伝承とも結びついて，しだいに神社としてのかたちを整えていきました。

その後，仏教が伝えられ，神祇観念が整うとともに，神社への信仰は，天皇を中心にしたものとして『古事記』や『日本書紀』にまとめられていきました。

神と仏の信仰をめぐっては，蘇我氏と物部氏の対立がよく知られています。しかし，実際には，東大寺で大仏が開眼したときに九州の宇佐八幡の神が招かれ，手向山八幡宮が東大寺の境内にまつられているように，神と仏はたがいに支え合うようになっていたのです。初めに取り上げた若狭神宮寺も，神への供養を行うために神社のそばに建てられた寺院なのです。こうして，各地の神社には神宮寺が建てられ，寺院には鎮守社がまつられるようになっていきました。このように神仏が助け合う姿を神仏習合とよんでいます。

広がる神と仏の世界 ―本地垂迹―

平安時代になると，八幡神を八幡大菩薩というように，神々を菩薩などとよぶようになりました。また，仏が人々を救済するために仮に神の姿をして現世に現れたのだとして，熊野権現や春日権現などと，神々に権現という名をつけてよぶようになりました。いわば神と仏は表裏一体と考えるようになっていったのです。やがて，この考えをもとに，仏教の側から，仏や菩薩が本来の姿で，そのあとをひいて姿を現したのが神々であるという，本地垂迹の考えがまとめられました。こうして，主な神社の祭神にはすべて本地仏が定められ，神社には本地堂が建てられました。

その後，仏教は地域と結んで現世の人々の願いにこたえる信仰をすすめるようになり，神社も仏教のような体系をもった宗教をめざすようになっていったのです。

現在のように，神社と寺院が別々のものとして分離されるようになったのはいつからなのか，また，どうしてそのようになったのかも考えてみましょう。

学習指導要領の内容の(2)のエ「国際的な要素をもった文化が栄え，後に文化の国風化が進んだことを理解させる。」に示す内容を，学習指導要領に示していない内容として扱っており，不適切である。

修正内容　発展的な学習内容に該当しない「チャレンジ学習　今に残る堀から中世の堺を探る」に変更する。

チャレンジ学習

今に残る堀から中世の堺を探る

今に残る堺の堀

全国には，かつての繁栄をしのばせる遺跡が残っています。ここでは，今も残る堀をきっかけに，国際貿易都市であった堺の歴史を調べてみました。

16世紀前半の堺の復元地図

このころの堺は，豪商宗達（→P.89）によって埋められました。現在わずかに残る堀は，近世期のものとされています。

19世紀前半の堺の古地図

中世の国際貿易都市

堺が国際貿易都市として大きく発展するきっかけは，15世紀にまでさかのぼります。1467年に応仁の乱が始まると，乱の影響をさけるため，勘合貿易の貿易船の発着港が今の兵庫から堺にかわりました。堺の商人は，貿易船にかかる費用をうけ負い，貿易によってそれを大きく上回る利益を得ました。勘合貿易のほかにも，琉球王国との貿易や南蛮貿易の拠点となるなど，堺は国際貿易都市として大きく発展していきました。

東洋のベニス

16世紀に日本にやってきたキリスト教の宣教師は，手紙のなかで，堺について以下のように記しています。

「日本全国のなかで堺の町より安全なところはなく，他の諸国において動乱あるも，この町にはかつてなく，敗者も勝者も，この町に来て住めばみな平和に生活し，他人に害を加うる者なし。町は，はなはだ堅固にして，西方は海をもって，また，他の側は深き堀をもって囲まれ，常に水充満せり」「堺の町は，はなはだ広大で，大商人が多数いる。この町にはベニス市（ベネチア）のごとく執政官によって治められている」

手紙に書かれた「執政官」とは，会合衆とよばれる36人の町人でした。堺では，町人の中から選ばれた会合衆の合議によって自治が行われ，自由な商業活動が展開されていました。これは，1562年に織田信長の直轄都市になるまで続きました。

ベネチア（イタリア）　異民族の侵入から守るために，陸地から4キロほどはなれた海上につくられた都市です。14～15世紀ごろ，貿易都市国家として最も栄えました。

○堺の古地図と現在の地形図を比較してみよう。
　地名や町名，道のようす，町の区画のあり方や周囲のようすなどに着目し，現在にひきつがれているものや変わったところなどを探してみよう。
○堺市博物館に行ってみよう。
　古墳時代から現在までの堺の歴史と文化を紹介する博物館です。
　大阪府堺市百舌鳥夕雲町2丁　大仙公園内　JR阪和線百舌鳥駅下車徒歩6分
　http://www.city.sakai.osaka.jp/hakubutu/